

建築概論

(第10回)

技術者倫理が問われる事例
(リコール隠しと、倫理違反がもたらす結果)

1

今回は、技術者倫理が問われる事例として、一級建築士による耐震強度偽装問題を考え、そこから倫理違反がどのような問題を引き起こすことになるのかを学びたいと思います。

リスク隠蔽による被害

- 企業のリスク隠蔽事件
 - 三菱自動車リコール隠蔽事件
 - 雪印食品国産牛肉偽装事件
 - **建築士による構造計算書偽装問題**
 - KYBによる免震・制振オイルダンパーの検査データ改ざん問題
 - レオパレス21の施工不良問題
 - 大和ハウス工業の建築基準法違反と施行不良問題
- 政府のリスク隠蔽事件
 - 薬害エイズ事件
 - BSE(狂牛病)問題

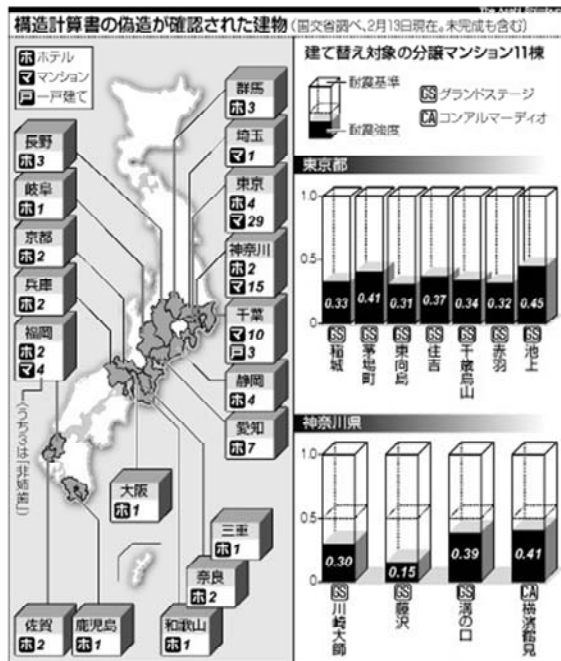
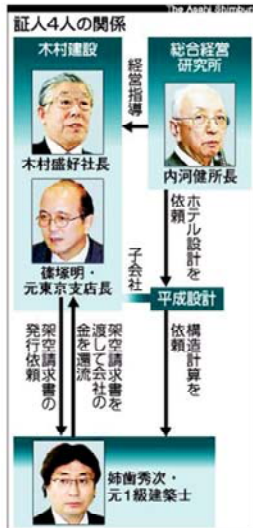
2

ここに、掲載しているのは、企業が過去、リスク隠蔽をして、後に発覚して大きな社会問題となった事例をあげています。

ここに、示しているように、建築に関係するものも沢山あります。

特に、赤で示している構造計算書偽装問題は、社会に非常に大きな衝撃を与え、一級建築士に対する信頼を失墜させる事件でした。

耐震強度偽装問題



耐震強度偽装問題の失敗の工学

<http://www.shippai.org/fkd/cf/CZ0200713.html>

失敗の工学

- 事故が起こるたびにその原因が語られ、防止策が論じられるが、多くの場合、担当者の不注意や管理の不十分さのせいになる。
- 失敗そのものを正視し、原因の究明と責任の追及とを分離し、失敗の全体像をとらえなければならない。
- 失敗のマイナス面しか見ない社会では、失敗情報を引き出し、蓄積し、利用することは不可能である。

これは、リスクマネジメントと言われる学問分野で言われていることを示しています。

日本では、失敗は隠蔽するものだという体質がありますが、欧米では、失敗は学ぶものだという考え方があります。要するに、人間は、失敗するものだという前提があるわけですね。

どうも、東洋では、儒教の影響なのか、失敗は恥ずかしいものだと捉える傾向がありますが、欧米では、失敗そのものより、失敗を隠してしまうことの方が恥ずかしいと考えるわけです。

ですから、欧米社会では、不良品には寛容で、すぐに交換に応じてくれますが、日本では、なかなか交換に応じませんよね。この辺は、文化の違いもあり、一概にどちらが良いとも言えませんが、ことリスク隠蔽に関しては、日本人は欧米社会から大いに学ぶ必要があると思います。

失敗経験の伝達

- 日本中のほとんどの企業が失敗経験の伝達の重要性を認識し、組織として失敗を伝達するシステム作りが行われている。
- しかし、個々の情報はそのままでは伝わらない。知識化して初めて伝達可能となる。
- 失敗を記述するのに、事象、経過、原因、対処、総括、知識化等の項目で記述すると伝達しやすくなる。なお、そこには、そのような失敗の背景、当事者としての心象、迷いなども記述してあることが望ましい。

技術というのは、失敗の積み上げによって培われていくものだということです。

ですから、技術力を高めて行くためには、失敗の経験をいかに次に活かしていくかが大事なのです。要するに、ノウハウの蓄積ですね。

失敗を生かす組織

組織として実行すべきこと

- 組織として語り継ぐ
 - 真の伝承
 - 結果図面
 - その他の裏図面
- 組織としての文化をつくる
 - 真の伝承
- 組織としての活動を行う
 - 批判によるフィードバック
 - 失敗情報の自動伝達
 - 定期的活動



やってはいけないこと

- 何でも成功したことにする後始末
- 軽薄な失敗経験談
- 無能な上司, 組織の放置
- 責任消散のための会議
- 統合的品質管理(TQC)の無思慮な適用

そして、これは、失敗を生かす組織と、そうでない組織の対比を表しています。

この辺は、君たちが将来、自分が働く企業の選択にも関わってくることなので、よく頭に入れておいてください。

成功の事例 —9.11アメリカ同時多発テロ



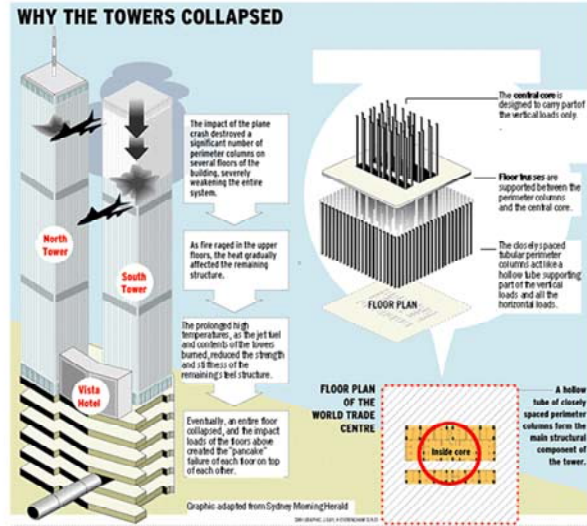
航空機が衝突し、火を吹く世界貿易
センター＝ロイター





壁面

設計者:
ミノル・ヤマサキ (Minoru Yamasaki)



第10回レポート課題

1. 耐震強度偽装事件についてわかったことを書け
2. 失敗の工学についてわかったことを書け
3. 副読本の「第9章」を読んだ感想について書け

10

今回は、このレポート課題にしたがって、レポートを作成してください。

以上で、第10回目の授業を終了します。